

農推第2167号
平成29年9月15日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（9月）

大阪府内の9月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
台風や長雨などによって病害が発生しやすくなります。栽培管理には十分注意し、必要に応じて防除を行いましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法（短期暴露評価）が導入されることに伴い、登録変更（変更申請中のものを含む）によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。

詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

◎「病害虫防除グループホームページ 防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎ 短期暴露評価により変更される農薬の使用方法的周知等について」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtuuti/ARfDH27_top.html

目次

1	水稻	P. 1～3
2	果樹（ぶどう、もも、温州みかん、いちじく、果樹類全般）	P. 4～9
3	野菜（トマト・ミニトマト、きゅうり、あぶらな科野菜）	P. 10～13
4	野菜類・花き類全般	P. 14
5	花き（きく）	P. 15～16

水稻

9月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻				いもち病		
				もみ枯細菌病		
				内えい褐変病		
				セジロウンカ		
				トビイロウンカ		
			ツマグロヨコバイ			
				斑点米カメムシ類		
				スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)		

いもち病



穂いもち

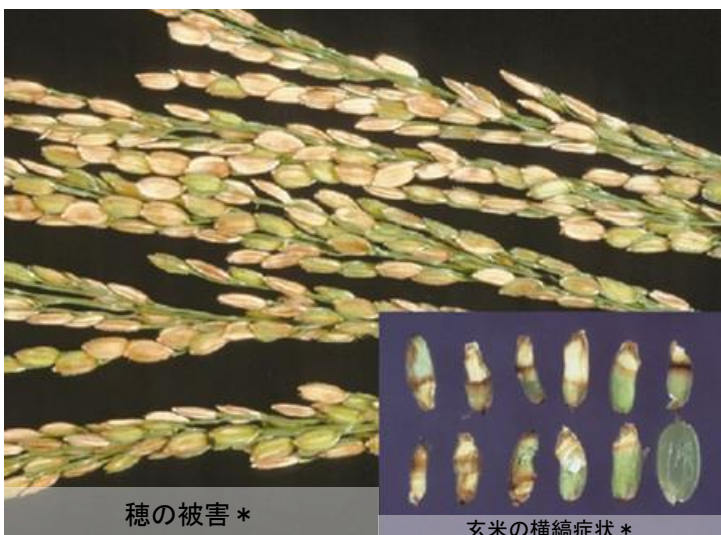
特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ブラシフロアブル（7日前まで）等を散布する。

もみ枯細菌病



穂の被害＊

玄米の横縞症状＊

特徴

- ◆穂で発病すると、もみ全体が青白色になり、後にうすい褐色になる。
- ◆出穂期が多雨であれば発生しやすい。

防除のポイント

- ◆前年多発したところでは予防散布する。
- ◆ブラシフロアブル（7日前まで）等を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

内えい褐変病



穂の被害※

特徴

- ◆出穂期が多雨であれば発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、ブラシンフロアブル（7日前まで）等を散布する。

セジロウンカ



幼虫※

特徴

- ◆気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（7日前まで）、アプロード水和剤（幼虫のみ、7日前まで）などを散布する。
- ◆収穫適期の範囲内で早めに収穫する。

トビイロウンカ



成虫

特徴

- ◆気象条件により、風によって海外から多数飛来し、急激に密度が高まる恐れがあるので、こまめに発生動向を注意する。

防除のポイント

- ◆薬剤抵抗性の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ◆スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（7日前まで）、アプロード水和剤（幼虫のみ、7日前まで）などを散布する。

ツマグロヨコバイ



成虫 *

特徴

- ◆葉に群がり汁を吸う。吸汁による実害は少ないが、萎縮病ウイルスを媒介する。

防除のポイント

- ◆薬剤はなるべく株元にかかるように散布する。
- ◆スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（7日前まで）などを散布する。

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ

特徴

- ◆畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

防除のポイント

- ◆出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、実施しない。
- ◆トレボン乳剤（14日前まで）、スタークル（アルバリン）粒剤（7日前まで）などを散布する。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



卵塊

特徴

- ◆食害が激しいのは田植え後約20日間までで、成長して硬くなったイネは食害しない。
- ◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆次年度の発生を減らすため、ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とすか（卵は水中では生存できない）、踏みつぶす。

果樹

9月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				褐斑病		
				ケムシ類		
				ブドウスカシバ		
				フタテンヒメヨコバイ		
				ブドウトラカミキリ		
もも			せん孔細菌病			
			クビアカツヤカミキリ(新規発生)			
温州みかん				黒点病		
				そうか病		
				ミカンハダニ		
				ミカンサビダニ		
いちじく				疫病		
				ハダニ類		
				ショウジョウバエ類		
果樹類全般				果樹カメムシ類		

ぶどう

べと病



特徴

◆雨が多いと発生しやすい。

防除のポイント

◆多発して落葉すると樹勢が低下し、次年度にも影響するので、収穫が終わった園もしっかり防除する。

◆ICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフロアブル(14日前まで)、レーバスフロアブル(7日前まで)などを散布する。

※原図: (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
* 原図: 大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

ぶどう

褐斑病



被害葉

特徴

- ◆秋期落葉期まで発生し、多発して早期に落葉すると樹勢が低下し、次年度にも影響する。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、収穫終了後にジマンダイセン水和剤(45日前まで)等を散布する。

ケムシ類（アメリカシロヒトリ、クワゴマダラヒトリ、トビイロトラガ等）



アメリカシロヒトリ幼虫＊

特徴

- ◆多発して葉を食害すると樹勢が低下し、次年度にも影響する。

防除のポイント

- ◆収穫後、発生を認めたら、フェニックスフロアブル(14日前まで)、デルフィン顆粒水和剤(前日まで)等を散布する。

ブドウスカシバ



成虫＊

特徴

- ◆幼虫が枝の内部を食い込む。特に樹勢旺盛な幼木・若木に被害が多い

防除のポイント

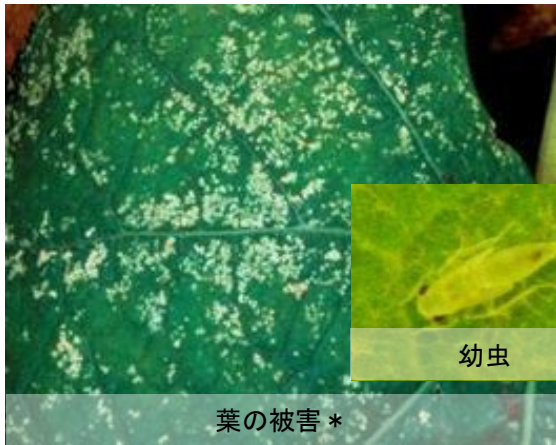
- ◆収穫後、発生を認めたら、フェニックスフロアブル(14日前まで)、スミチオン乳剤(小粒種:90日前まで、大粒種:30日前まで)等を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

ぶどう

フタテンヒメヨコバイ



葉の被害＊

幼虫

特徴

- ◆葉裏から吸汁し、かすり状の傷を付ける。

防除のポイント

- ◆収穫後、発生を認めたら
スミチオン乳剤（小粒種:90日前まで、大粒種:30日前まで）
スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤（前日まで）
 などを散布する。

ブドウトラカミキリ



成虫※

特徴

- ◆幼虫が枝の内部に食い入り、芽や新梢が枯れたり、枝が折れたりする。
- ◆成虫発生時期は8月中旬～10月上旬、幼虫が枝内に食い入るのは10月上中旬。

防除のポイント

- ◆収穫後、スミチオン乳剤（小粒種:90日前まで、大粒種:30日前まで）、モスピラン顆粒水溶剤（収穫後秋期）などを散布する。

もも

せん孔細菌病



発病枝（夏型枝病斑）

特徴

- ◆秋期に風を伴った降雨が多くなると、越冬する病原細菌が多くなり、次作に影響する。

防除のポイント

- ◆収穫後、9～10月にICボルドー412等を散布する。
- ◆台風・大雨があると落葉痕からの感染が多くなるため、事前の予防散布につとめる。
- ◆発病枝(夏型枝病斑)を除去し、園外に持ち出して処分する。

もも

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆成虫3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
- ◆成虫は6～8月に出現、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆うどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)がある穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆成虫は見つけ次第、捕殺する。
- ◆うどん状フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド(前日まで) ベニカカミキリムシエアゾール(前日まで)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆株に4mm目ネットを樹に何重にも巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。ネット設置後も見回り捕殺する。

温州みかん

黒点病



特徴

- ◆雨が多くなると発生が増加し、広がる。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤(30日前まで)、ペンコゼブ水和剤(30日前まで)などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
また、両剤とも、かんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する。

そうか病



特徴

- ◆長雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、トップジンM水和剤(前日まで)等を散布する。

温州みかん

ミカンハダニ・ミカンサビダニ



ミカンハダニによる葉の被害※



ミカンサビダニによる果実の被害※

特徴

- ◆果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。
- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、コロマイト水和剤（7日前まで）、ダニエモンフロアブル（7日前まで）、スターマイトプラスフロアブル（7日前まで）等を散布する。
- ◆同一系統薬剤を連用すると抵抗性が発達しやすいのでローテーション散布を行う。

いちじく

疫病



被害果※

特徴

- ◆雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷きわらやマルチを行う。・腐敗果は早めに園外に持ち出して、処分する。
- ◆ランマンフロアブル（前日まで）、レーバスフロアブル（14日前まで）等を散布する。

ハダニ類



被害葉※



被害果※

特徴

- ◆果実や葉に寄生、吸汁して変色させる。

防除のポイント

- ◆ダニサラバフロアブル（前日まで）
ダニコングフロアブル（前日まで）
マイトコーネフロアブル（前日まで）
などを散布する。

ショウジョウバエ類



ショウジョウバエによるイチジク果実腐敗※

特徴

- ◆酵母腐敗病を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる過熟果や腐敗果は、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆アーデント水和剤（前日まで）などを散布する。

果樹類全般

果樹カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆もも、うめ、かき、ぶどう、みかんなどの果実に傷をつける。

防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を確認した場合はアディオン乳剤（かんきつ14日前まで、もも7日前まで、かき7日前まで）
スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ前日まで、もも前日まで、かき前日まで）
などを散布する。
注）作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

野菜

9月前半の病害虫発生状況

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト(施設栽培)			トマト黄化葉巻病 (TYLCV)		
			コナジラミ類		
きゅうり(施設抑制栽培)			うどんこ病	べと病	
			炭そ病・褐斑病		
			ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)		
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)		コナガ			
			ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)		
			根こぶ病		

トマト・ミニトマト(施設栽培)

トマト黄化葉巻病(TYLCV)・コナジラミ類



TYLCV発症株

特徴

- ◆トマト黄化葉巻病 (TYLCV)は、コナジラミ類により媒介される。

防除のポイント

- ◆感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆感染株からの二次伝染を防ぐため、除去した株はビニル袋等に密閉して完全に枯死させる。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。

きゅうり(施設抑制栽培)

うどんこ病



特徴

- ◆日照不足、乾燥、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回程度の使用に留める。
QoI剤の例: アミスター20フロアブル(前日まで)
ストロビーフロアブル(前日まで)
フリントフロアブル25(前日まで)
SDHI剤の例: アフェットフロアブル(前日まで)
- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆高温時や浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

べと病



特徴

- ◆多湿下で発生が多い
- ◆夜温が低下して結露し、発生が増加している。

防除のポイント

- ◆ハウス内が多湿になると発生しやすいので、排水、換気に注意する。
- ◆肥切れになると発生しやすいので、追肥をこまめに行う。
- ◆発生が見込まれる時期にジマンダイセン水和剤(前日まで)やランマンフロアブル(前日まで)等を予防的に散布する。
- ◆発生を確認した場合は、プロポーズ顆粒水和剤(前日まで)やベトファイター顆粒水和剤(前日まで)等を散布する。

炭そ病・褐斑病



炭そ病

褐斑病

特徴

- ◆窒素過多・肥切れは発生を助長する。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤(いずれも前日まで)、ベルクート水和剤(前日まで)などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル(前日まで)、ゲッター水和剤(前日まで)などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫*

特徴

- ◆施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

防除のポイント

- ◆生長点および脇芽の先端を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にゼンターリ顆粒水和剤（前日まで）、アフーム乳剤（前日まで）等を散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前かん注処理あるいは定植時粒剤施用と、本ぽは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫*

防除のポイント

- ◆ 苗床も含め、発生には充分注意し、初期の防除を徹底する。
- ◆ 被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆ セル成型育苗トレイにプレバソンフロアブル5（キャベツ、はくさい）等をかん注するか、プリンス粒剤（キャベツ、ブロッコリー）等を施用する。
- ◆ 発生初期にディアナSC（キャベツ、はくさい等）等を散布する。

根こぶ病



根こぶ病によるキャベツのしおれ症状と生育不良*

防除のポイント

- ◆ あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆ 定植時に温度が高いと発生しやすい。早植えを避ける。
- ◆ 土壌pHが低い（酸性）と発生しやすい。石灰質資材等を施用しpH 6.5～7に調整する。
- ◆ 前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。

野菜類・花き類全般

9月前半の病害虫発生状況

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類			オオタバコガ		
花き類(露地)					

オオタバコガ



なすの果実に寄生するオオタバコガ幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

きく

9月前半の病害虫発生状況

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			白さび病		
		黒斑病・褐斑病			
		アザミウマ類			

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
 - ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
 - ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める。
 - ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病＊

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
 - ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフエーム乳剤（ミカンキイロアザミウマ）などを散布する。